

# 園のおたより



第 1 号

令和 4 年 4 月

埼玉大学教育学部附属幼稚園

園児たちが中学生になる頃の2030年までに実現させようと国際的に取り組んでいるSDGs（持続可能な開発目標）の一つは「5 ジェンダー平等を実現しよう」です。その下位項目の一つは「5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する」と表現されています。

日本では、政府が2009年に男女共同参画社会基本法を施行し、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」としていくことを目指してきました。

身近なところでは、本年4月に、埼玉大学教育学部のリーダー（学部長）に堀田香織教授が就任されました。ジェンダーに関わらず、人がその能力資質を正當に評価されて活躍できる社会が実現しつつあります。

依然、ジェンダー平等とは言えない社会的状況がある事も事実ですが、子供達が活躍する社会は、さらにジェンダー平等が進むと確信します。個人的な話で恐縮ですが、娘が電気工学の大学院を修了後、産業用ロボットの開発現場で働くこととなり、心から嬉しく思いました。彼女は、幼い頃から自然に興味を示し、毎年理科の自由研究をしていました。園児を見ていると、一人ひとりが将来どんな世界で格好良く活躍しているだろうと想像します。

ジェンダーによって人の将来を決める時代は去りましたが、子どもを授かり育てる過程では、様々な困難が伴います。この困難をジェンダー平等に乗り越えられるように社会全体で応援していくことが、大変重要です。将来、子どもたちがジェンダーに関わらず充実して活躍できる社会創りに協働して参りましょう。



## ふぞくようちえん90周年 育ちをつなぐプロジェクト

本園は、1932（昭和7）年に埼玉県女子師範学校附属幼稚園として開園以来、90周年を迎えました。そこで2022（令和4）年度は、『ふぞくようちえん90周年 育ちをつなぐプロジェクト』として、いくつかの活動を展開することとしました。

### 〔地域の園とつながる：公開保育研究会〕

これまで、地域の幼稚園、保育園、こども園、小学校等の先生方に来園いただき、教育研究協議会として年1回開催（公開保育や研究発表、講演会など）してきましたが、今年度からは「公開保育研究会」として、年3回（各学期に1回）開催する形に変更しました。午前中、3クラスの保育を参観いただいたあと、協議・意見交換を行います。本園では、幼稚園教育の基本とされている「遊び」や「一人一人の育ち」を大切にしています。地域の園の先生方とつながりながら、共に、幼児期のよりよい生活や育ちについて考えていきたいと思えます。

### 〔地域の子育て家庭とつながる：子育ておはなし会 ふふふ〕

地域の未就園児（0～3歳児）をもつ家庭の方を対象とした「子育ておはなし会」を、年5回開催します。これまでも、在園児の保護者に向けた講演会やすこやか親子（学校保健委員会）などの際に、大学のいろいろな専門分野の先生に講師となっておりました。大学教育学部の附属園であることの利点を生かしながら、さらに地域の子育て家庭への貢献をしていければと考えています。「ふぞくようちえん」の頭文字と、柔らかな気持ちのひとときとなるように『ふふふ』と名付けました。

### 〔卒園後の育ちを見取る：卒園生への聞き取り〕

幼稚園生活が、のちの生活においてどのような価値、意味をもつか、卒園生を対象とした調査を行う予定です。幼児期の教育の成果は、なかなか見えにくいですが、その人生の基盤となるものと認識して、毎年の保育を進めてきました。本園が90年となる機会に、卒園生の言葉から、本園の教育活動の意義をきちんと整理してみたいと考えています。これまで幼稚園で育んできたことの中に、これからも大切に育んでいくことを、より明確に見取っていききたいと思えます。

幼稚園は、今を生き、未来を生きる子どもたちのための場所です。90年の過去を振り返るためではなく、90年の先人の積み重ねを、これからの子どもたちの育ちにつなげるための一年にしていきたいと思えます。（副園長）



## 1くみ



### 「ようちえん楽しいな」

幼稚園に入園して、もうすぐ2週間が経ち、幼稚園での生活にも少しずつ慣れてきたようです。朝、門を通過して走って1組さんの部屋まで来て「おはよう」と元気に挨拶をしてくれたり、タンポポやナズナなどをお土産にもってきてくれたりしながら登園する姿が見られるようになりました。毎日部屋で朝の支度が終わると、「今日は遊べる？」と幼稚園で遊べることを楽しみにしています。

園庭で遊ぶことが好きな1組さん。雨が降るなど1日部屋で過ごす日があると、片付けが終わった後、「お外に行くの？」とわくわくした表情で尋ねてきます。天気がよく園庭に出られる日は、思いきり走ったり、砂場でお料理をしたり、電車や観光バスの運転手になって園庭を巡ったり、様々な遊びが始まります。Aさんが砂場で、木の板を車に見立て走らせていた時のことです。車が砂場の外へ出て、道がなくなっていました。Aさんの車は「道がない」と停車してしまっていたので、担任はジョイントマットをそっと置いてみました。それを見たAさんは「大きな道だ！」と車を走り出させます。見ていたBさんは「僕も作る！」とマットを運び、道を長くつなげます。Cさんもそっと寄ってきて、道を作る工事の人になりきり道を繋げました。コブシの木を回って「こっちに」「あっちに」とそれぞれの方向に道を伸ばし、車を走らせて楽しみました。

新しいことがたくさん幼稚園での生活の中で、自分のやってみたいと感じたことをやってみて幼稚園で過ごす楽しさを感じ始めてきているようです。

部屋の中では、みんなで「バナナくんたいそう」をやり始めました。聞きなれない音楽に驚いたり、知らない体操の動きに不思議そうにしたりする姿も見られましたが、毎日みんなで集まる時に「バナナくんたいそうやらないの？」という声が聞かれるようになり、曲の面白さ、体を動かす楽しさを感じながら、みんなで楽しんでいきます。

「楽しかった」「またやりたい」「おもしろい」ということを教えてくれることが日に日に増えてきたことをとても嬉しく思っています。幼稚園に来ることが楽しいな、今日の幼稚園楽しかったなど、毎日思いきり遊んで楽しい経験をしながら過ごしていけるよう日々の保育を行っていきたいと思っています。これから一年間よろしく願いいたします。



## 2くみ



### 「春の自然に触れながら」

新しい友達、新しい部屋、新しい先生、2組としての新しい生活が始まりました。入園・進級してしばらくは緊張して登園してくる姿がありましたが、最近では登園後、着替えを済ませると、早速興味のある遊びに取り掛かっていく姿が見られるようになってきました。

この時期の園庭は様々な春の自然で溢れています。晴れている日に園庭に出ると、早速テントウムシを見つける人がいました。「先生、虫かご貸して!」という言葉で合図に、虫探しの探検が始まりました。しかし、いざ探し始めるとなかなか見つかりません。どうしたものかと考えていると、「テントウムシ、あっちにいたよ!」と教えてくれる人がいました。どうやら、園庭の東側、午前中陽のよくあたる3組の畑の近くにたくさんいることがわかりました。とても小さなテントウムシは、しゃがんでよく見てもなかなか見つかりません。それでも、子どもたちはあつという間にたくさんテントウムシを見つけました。「見つけたい」という強い思いがあったからこそ、テントウムシがたくさんいる日当たりのいい場所や、芝生の中からとても小さなテントウムシを発見できたようです。

また、2組の保育室前には大きな花壇があります。様々な花が咲いて彩るとともに、子どもたちの遊びの場にもなります。今の季節、パンジーやビオラ、ペチュニアなどの花が春の日差しを浴びて元気に育っています。子どもたちは花びらを集めてままごとのごちそうにしたり、遊び着のボタンにつけてアクセサリーにしたりしています。その他に、色水遊びをする人たちもいます。花びらを水につけ、ビニール袋に入れて揉んだり、すり鉢とすりこぎで擦ったりして水に色をつけます。色とりどりの花を集めてどんな色になるか試してみる人、自分の好きな色の花を採ってその色の水を作ろうとする人など、いろいろな遊び方をしています。ドキドキやワクワク、いろいろな気持ちを胸に登園したこの4月、芝生を始めとした園庭の豊かな自然は子どもたちの拠り所になっています。

これから30人で様々な楽しい遊びや、心動かされる体験を日々の中でたくさん積み重ねていきたいと考えています。担任も2組の一員として、様々な体験を共にしていくことをとても楽しみにしています。



### 3くみ

#### 「3組になったんだ」

進級おめでとうございます。始業式の日、久しぶりの登園に嬉しさと緊張を感じながら3組での新しい生活が始まりました。これまで憧れていた3組の保育室や園庭の環境を使うことが楽しみだったようで、「これも使っているの？」とわくわくした顔で気になるものを手に取ったり、元気よく園庭に出掛けたりしています。

中でも、木製の滑り台ではたくさんの方が遊んでいます。Aさんはごごを使い、友達も乗せて滑ってみました。しかし、うまく滑らず、その日はすぐに遊びが終わってしまいました。数日経った日、Bさんが倉庫の中で木の板を見つけ、今度はそれを使ってみることにしました。しかし、それでもうまく滑りません。その時、何かを思いついたCさんが滑り台に砂を乗せてみると、不思議なことにさっきまで滑らなかった滑り台が、よく滑るようになったのです。そのことに面白さを感じ、砂の量や撒く位置を工夫しながら夢中になって繰り返し滑って遊ぶことを楽しんでいました。上手いかないことがあっても、もっと面白くするためにいろいろなことを試してみようとする姿があります。

学級のみんなでは歓迎会に向けた活動に取り組みました。どんなことをしたら新しい友達が喜んでくれるかをみんなで考えてみると、「歌を歌ってあげる」「プレゼントをあげる」というアイデアが出てきました。「指輪だと小さいから食べちゃうかもしれないよ」など、1組、2組の友達のことを思いながらみんなで話し合いを進めました。また、遊戯室で練習している時には、「大きい声だと聞こえちゃうよ」「カーテンを閉めて見えないようにしなくちゃ」と、新しい友達に喜んでもらうために自分たちで考えながら一生懸命に取り組んでいました。歓迎会当日には、大勢の友達を前に緊張しながらもやり遂げることができ、自分たちで会を作り上げられたことへの自信や3組になったことの嬉しさを改めて感じているようでした。

進級から1か月が経ち、少しずつ緊張も解れ、3組になった嬉しさを感じながら過ごす姿が見られるようになりました。みんなのわくわくする気持ちや、やってみたいという気持ちを大切にしながら、日々の保育を進めていきたいと思っています。

一年間、どうぞよろしく願いいたします。